

令和元年度 河川魚類等調査委託 報告書(概要版)

調査概要

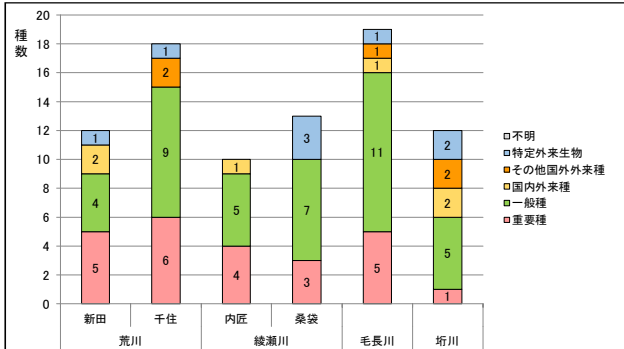
足立区内の魚類生息状況を把握するため、令和元年8月～10月に荒川、綾瀬川、毛長川、圀川の4河川6地点にて魚類調査を実施した。調査は、定置網・刺網・投網・タモ網等を用いて魚類の任意採集を行った。綾瀬川の2地点では、底生動物の採集も行った。



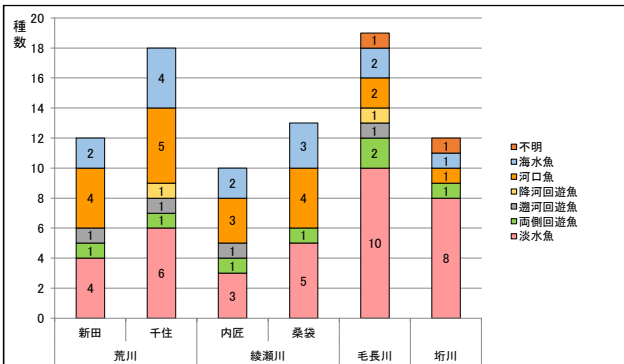
調査結果

- ・合計7目12科32種の魚類が確認された。
- ・8種の魚類が重要種に該当した。
- ・3種が国内外来種、7種が国外外来種に該当した。国外外来種のうち4種が特定外来生物に該当した。
- ・確認種の53%が淡水魚、13%が回遊魚、31%が河口・海水魚であった。
- ・毛長川、圀川は比較的上流に位置するため、淡水魚の割合が高かった。
- ・綾瀬川では、24種の底生動物が確認され、6種が重要種、5種が外来種に該当した。(外国産由来の可能性のある種含む)

魚類 調査地点別確認種数



魚類 生活型別確認種数



河川別調査結果

【毛長川】ふれあい橋上流付近 9月27日/28日 晴れ/晴れ



【調査地点概況】
両岸とも植生に覆われている。本調査地点のうち、最も上流に位置する。

【確認種】19種
ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、オイカワ、マルタ、モツゴ、タモロコ、ニゴイ、スゴモロコ、ボラ、カダヤシ、ミナミメダカ、スズキ、マハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ、トウヨシノボリ類、ウキゴリ



【綾瀬川】桑袋ビオトープ公園付近 8月26日/27日 晴れ/晴れ 10月28日/29日 曇り/小雨



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸であり、浅場もほとんどみられない。

【確認種】13種
コイ、ニゴイ、チャネルキャットフィッシュ、ボラ、カダヤシ、スズキ、オオクチバス、シマイサキ、マハゼ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ、ウロハゼ

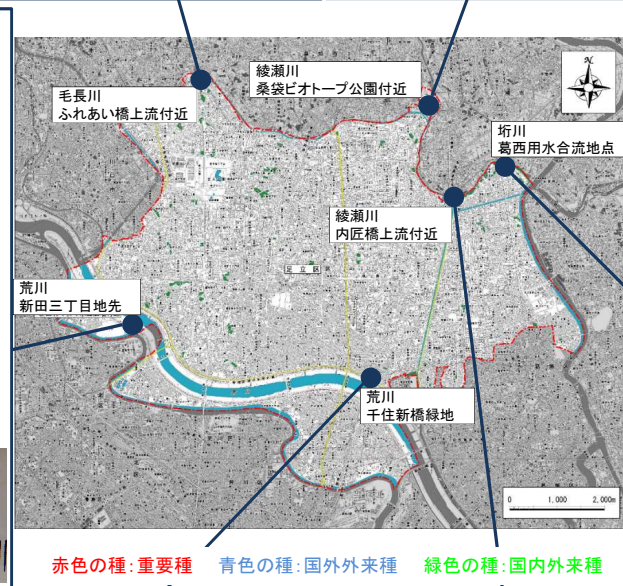
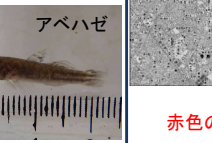
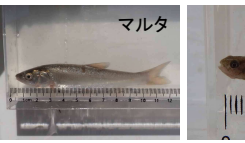


【荒川】新田三丁目地先 9月27日/28日 晴れ/晴れ

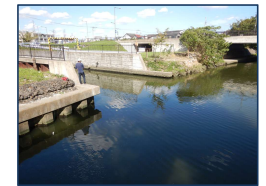


【調査地点概況】
抽水植物、ワンド、流入水が存在し、干潮時に干潟が形成される。

【確認種】12種
ゲンゴロウブナ、ハス、マルタ、ニゴイ、ボラ、カダヤシ、スズキ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ



【圀川】葛西用水合流地点 9月25日/26日 晴れ/晴れ



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸であり、ヨシ等の抽水植物はみられない。

【確認種】12種
ゲンゴロウブナ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、スゴモロコ、ボラ、カダヤシ、ブルーギル、マハゼ、アマチチブ、トウヨシノボリ類、ガムルチー



【荒川】千住新橋緑地 9月25日/26日 晴れ/晴れ



【調査地点概況】
河岸にワンドが整備されており、干潮時に干潟が形成される。抽水植物もみられる。

【確認種】18種
ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、ハクレン、マルタ、モツゴ、ボラ、カダヤシ、スズキ、キチヌ、シマイサキ、マハゼ、アシシロハゼ、アベハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ、ピリンゴ

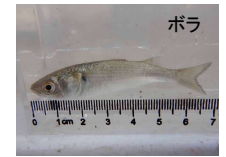


【綾瀬川】内匠橋上流付近 8月26日/27日 晴れ/晴れ 10月28日/29日 曇り/小雨



【調査地点概況】
両岸とも垂直護岸で、抽水植物はみられないが、干潮時に浅場がみられる。

【確認種】10種
コイ、ゲンゴロウブナ、マルタ、ニゴイ、ボラ、スズキ、マハゼ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ、アマチチブ

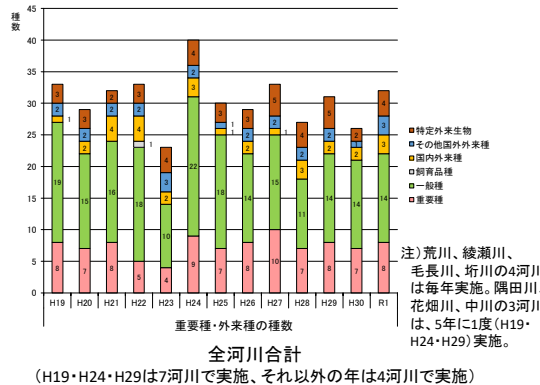


令和元年度 河川魚類等調査委託 報告書(概要版)

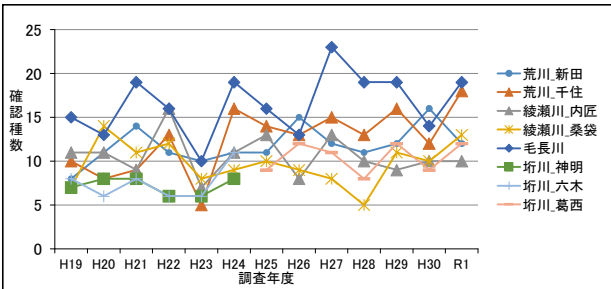
経年変化

- 平成19年から令和元年(今年度)までの13年間で、合計9目22科51種の魚類が確認されている。
- 重要種は今年度までで合計12種が確認されており、毎年4~10種の間で推移している。
- 国外外来種は今年度までに合計8種確認されており、毎年3~7種の間で推移している。
- 特定外来生物は今年度までに5種が確認されている。
- 毛長川は多様な生息環境を反映し、毎年多くの魚種が確認されている。
- 両岸が垂直護岸の綾瀬川、垢川では、生息環境が単調なため、例年、比較的、確認数が少ない。
- 荒川は流域面積が広く、出水等によって上流からの魚類の加入量が増え、年によって確認数が変動するものと考えられる。
- 5年に一度実施している隅田川、花畑川、中川の3河川のH29確認種数は、いずれもH24よりも少なく、H19とほぼ同等であった。

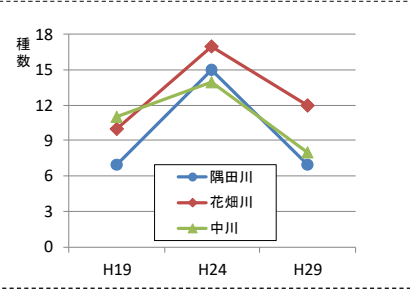
足立区内における魚類の確認種数の経年変化



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化 (毎年実施の4河川)



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化 (5年ごとに実施の3河川:今年度実施)



着目種

- 本調査では、温暖化に伴い分布域の拡大が指摘されるカワアナゴ、ウロハゼ(今年度確認)、ヒナハゼが確認されている。これらの魚類は、地球温暖化の指標になりうる種であり、今後の動向が注目される。
- H24年度から確認され始めたチャンネルキョウトフィッシュは、今年度も確認された。過年度調査では稚魚が確認されていることから、周辺水域で繁殖していることが懸念される。
- H24年度から継続して確認されている特定外来生物のカワヒバリガイが今年度も確認された。本種は、大量に増加すると、水道施設等に大量に固着し、通水被害等を引き起こす恐れがあるため、今後の動向に注意する必要がある。
- 昨年度に引き続き、特定外来生物が多く確認された。確認された種は、魚類4種(チャンネルキョウトフィッシュ、カダヤシブルーギル、オオクチバス)、底生動物1種(カワヒバリガイ)、両生類1種(ウシガエル幼生)の合計6種であった。



令和元年度 確認種一覧

No.	目名	科名	種名	生活型	調査地点						重要種	外来種		
					荒川		綾瀬川		毛長川	垢川				
					新田	千住	内匠	桑袋						
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	降河	1					2		国:EN,都:VU		
2	コイ目	コイ科	コイ(製不明)	淡水	3	1	1	1	1	1				
3			ゲンゴロウブナ	淡水	1			1	1		1		国内	
4			ギンブナ	淡水		5					1	2		
5			タイリクバラタナゴ	淡水	1						6	1	国外	
6			ハクレン	淡水	1								国外	
7			ハス	淡水	1								国内	
8			オイカワ	淡水							3			
9			マルタ	鱈河	1	5		1			3		都:留	
10			モロコ	淡水		1					5	80		
11			タモロコ	淡水							3			
12			ニオイ	淡水	1		1	2	1	1	10		都:NT	
13			スゴキロコ	淡水							6	1	国内	
14	ナマズ目	アザリカナマス科	チャンネルキョウトフィッシュ	淡水						1			特定	
15	ボラ目	ボラ科	ボラ	海水	15	16	5	1	10		11	20		
16	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	淡水	14	1					3	10	17	特定
17	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	淡水							1		国:VU,都:CR-EN	
18	スズキ目	スズキ科	スズキ	海水	2	2		1	2		5			
19		サンフィッシュ科	ブルーギル	淡水								3	特定	
20			オオクチバス	淡水						1			特定	
21		タイ科	キチヌ	海水										
22		シマイサキ科	シマイサキ	海水		1				1				
23		ハゼ科	マハゼ	河口	8	29	4				3	2	1	
24			アシシロハゼ	河口	1	4	2	2			15			都:留
25			アハハゼ	河口	11	10								都:NT
26			シモフリシマハゼ	河口	11	7					4	8		都:留
27			ヌマチチブ	馬場	11	6	9	4	11	31	8	3		都:留
28			トウヨシボリ類	不明								1	5	
29			ウロハゼ	河口							2			
30			ウキゴリ	両側								1		
31			ピリゴ	河口		1								都:NT
32		タイワンドジョウ科	カムルチー	淡水										国外
合計	7目	12科	32種	種数	12	18	7	8	5	11	19	12	8種	10種
				個体数	77	95	28	13	25	63	87	135		

注1:種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト 河川環境データベース」に準拠した。
 注2:生活型の区分は、加納光樹・小池智・河野博(2000)東京湾内湾の干潟域の魚類相とその多様性、魚類学雑誌47(2):115-129を参考とした。
 注3:重要種(赤色で示した種)
 国:EN...環境省RL(2019)の絶滅危惧ⅠB類、国:VU...環境省RL(2019)の絶滅危惧Ⅱ類、都:CR+EN...東京都RDB(2013)区部における絶滅危惧Ⅰ類、都:VU...東京都RDB(2013)区部における絶滅危惧Ⅱ類、都:NT...東京都RDB(2013)区部における準絶滅危惧、都:留...東京都RDB(2013)区部における留意種
 注4:国外外来種(青色で示した種) 特外...特定外来生物 国外...種外外来種
 注5:国内外来種(緑色で示した種) 国内...国内外来種(国内の他の領域から人為的に移入された種)
 ※ゲンゴロウブナ、ハス、スゴキロコは重要種に該当するが、関東では国内外来種に該当するため、重要種の選定から外した。
 ※表中の数字は確認個体数を示す。

底生動物	調査地点	確認種	合計
	内匠橋上流付近	ヒメタニシ、ウスイロオカチゲサガイ、ミズゴマツボ、ヒメモノアラガイ、ハブタエモノアラガイ、カワヒバリガイ、シジミ属、ヤマトカワゴカイ、ユリミズ、ミソレヌマエビ、カリヌマエビ属、テナガエビ、クロベンケイガニ、ウスイロフトヒゲコカゲロウ、アメンボ、ユスリカ属、ホリムスリカ属、ハモンユスリカ属	18種
桑袋ビオトープ公園付近	シナカイメン、ヒメタニシ、ヒメモノアラガイ、ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、カワヒバリガイ、シジミ属、エラオイミズミズ、ユリミズ属、ミソレヌマエビ、カリヌマエビ属、テナガエビ、スズエビ、クロベンケイガニ、ベンケイガニ、モクスガニ、アメンボ、ハモンユスリカ属	18種	

まとめ

- 足立区には、様々な環境の河川が存在し、それぞれの河川には特徴のある魚類が形成されている。
- 調査河川は、海域との連続性は高いが、周辺水域との連続性は比較的低く、また、両岸直立護岸の直線的な箇所が多いため、調査河川内にも事例があるように、河川と連続性を持たせ、魚類の生息・産卵環境となるような、池や湿地等のビオトープや人工的なワンド・干潟などの環境を増やしていくことが望まれる。
- これまでの調査では、外来種が多く確認されており、在来種への悪影響が懸念されていることから、観賞魚等を野外に放たないといった啓発活動も必要である。

